


環境配慮措置	カテゴリー	01：交通	
	項目	e. シャトルバスの運用	
	概要	●市電電停付近からロープウェイ山麓駅までのシャトルバスを運行することによって、来場者の公共交通機関利用を促進し、自動車による騒音・光害・大気環境の悪化を低減する。	
環境配慮の目的・方針	【生活環境】	近隣地域の生活環境の悪化の回避	
	【生活環境】	現状の大気環境を悪化させない交通機能分担	
	【地球環境】	温室効果ガスの排出量を現行以下に抑制可能な輸送システム	
	【 】		
	【 】		
該当箇所・チェック対象	チェック状況・写真	評価	
		実施状況・コメント	評価
シャトルバスの運行状況	—	基本的に1台で運行しており、臨時車両を出すことはない。ゴールデンウィークやお盆期間には、臨時便として、時間に関係なく満員となり次第発車している。それでも足りない場合においては台数を増やして運行している。	◎ 効果あり
シャトルバス利用者の状況	市電割引利用実績 (12～9月、実人員)	合計	平日は1便平均10名程度である。 シャトルバス利用はロープウェイ利用者の26%に及ぶ。 市電割引利用者も増加した。
市電割引の利用状況	23、24年度実績	38,944	
	21年度実績	20,135	
	増減(対21年度実績)	18,809	
	増減率(対21年度実績)	193.41%	◎ 効果あり
自家用車による来場の状況(削減効果等)		利用者アンケートによると自家用車・レンタカーによる来場が全体の半数程度であった。 イベント時等を除いて、山麓駐車場が満車になることはなかったが、混雑しそうな時には誘導員を配置している。適正な誘導により、アイドリングの影響等削減できるが、平成24年の紅葉シーズンには、予測を超え山麓駐車場が満車状態となり、複数入口のある駐車場は車両が輻輳している状態であった。余裕を見た人員配置が必要と考えられる。	△ 改善の余地あり